

# 【社会】 <小学校 第5学年>

## 1 結果のポイント

- 「わたしたちの生活と食料生産」については、農家の人々の工夫や努力についての理解をみる問題の正答率は90%を上回っている。
- 他方、資料の数値を正しく読み取り、その変化の様子を正しくとらえる力をみる問題や、これからの食料生産について考える力をみる問題の正答率は50%を下回っている。
- 「わたしたちの生活と工業生産」については、「自動車の組み立て工場」の特徴や働く人々の様子の理解、運輸とのかかわりなどを考える力をみる問題の正答率はすべて70%を上回っている。また、日本と外国との貿易に関する問題の正答率は75%を上回っているものが多い。
- 他方、日本の貿易の特色などについて考える力をみる問題は70%を下回っている。
- 「わたしたちの生活と情報」については、放送局で働いている人の工夫や努力を「正しい情報を分かりやすく、早く伝える」という観点から考え判断する力をみる問題の正答率は80%を上回っている。
- 他方、情報の利用について考え、質問にあったたずね先と調べる方法を組み合わせて自分の考えを表現する力をみる問題の正答率は65%程度である。
- 地図上に描かれた縮尺を活用する力をみる問題の正答率は75%を上回っている。
- 他方、四方位を正しく理解し、地図上で活用する力をみる問題の正答率は60%を下回っている。

## 2 結果の分析

### (1)「知識・理解」の力をみる問題の例

<問題> 4 の2

4 2 次のメモは、見学メモの③の仕事をしている人にインタビューしたときのものです。



番組の放送中に、地震の被害ひがいなど別のニュースが飛び込み、放送予定の内容の一部を急に入れかえることもあります。

メモのように、放送予定の内容の一部を急に入れかえるのはなぜですか。ア～エの中からあてはまる理由を一つ選び、その記号を  の中に書きましょう。

- ア 放送予定の内容がしっかり準備できていなかったから。
- イ より大切な情報をより早く伝えたいから。
- ウ 予定していたニュースを待っている人がいるから。
- エ より多くの情報を伝えたいから。

<結果> 4 の2 正答率 80.1% (正答…イ)

<分析>

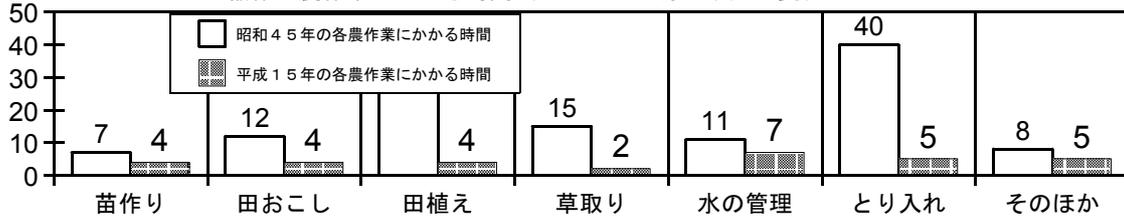
4 の2は、「放送局で働く人の工夫や努力について正しく理解しているか」をみる問題である。昨年度の類似の問題より正答率は高くなっている。また、昨年度課題であった「わたしたちの生活と工業生産」の「部品を作る工場と組み立て工場」についての理解をみる2 の1の正答率も高くなっている。「知識・理解」をみる他の問題でも正答率は80%程度であることから、基本的な事項についてはおおむね理解できていると考えられる。これは、作業的・体験的な学習を通して学ばせたり、2つの工場を比較・関連させ、各工場の意味や働き、工夫や努力について具体的に理解させるようにしたりするなどの授業改善が図られたためであると考えられる。今後も、作業的・体験的な学習、地域教材や人物を中心とした具体的な学習等の一層の充実により、他の観点の指導とかかわらせながら確実に知識・理解の定着を図ることが求められる。

### (2)「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> 1 の1① 2 の3

1 春子さんたちは、日本の農業について調べ、話し合っています。1～4の問いに答えましょう。

(時間) 資料1 稲作の農作業にかかる時間(10アールあたり)の変化



1 春子さんは、上の資料1から考えられることを次の学習メモにまとめました。①, ②にあてはまることばを「」の中のア～エの中から一つずつ選び、その記号をの中に書きましょう。

学習メモ ～稲作の農作業にかかる時間の変化～

〈分かったこと〉 昭和45年の各農作業にかかる時間の合計(119時間)にくらべると、平成15年の各農作業にかかる時間の合計は、およそ①になっており、大きく減っている。各農作業にかかる時間は、すべての農作業で減っているが、その中でも作業の時間が半分以下になったのは、田おこし・田植え・②である。

- ①  ア 2分の1      イ 3分の1      ウ 4分の1      エ 5分の1

2 3 (1) 岐阜市さかほぎちょうから見て、坂祝町はどちらの方位にありますか。「」の中のア～エから一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 東      イ 西      ウ 南      エ 北

<結果> 1 の1① 正答率 38.1% (正答…ウ)

2 の3(1) 正答率 52.5% (正答…ア)

<分析>

1の1は、「目的に応じて資料を読み取り活用することができるか」をみる問題である。この問題以外の「観察・資料活用の技能・表現」の力をみる問題の正答率がほぼ75%以上であることや、昨年度課題となっていた資料の部分に目を付けて分析的にとらえること、資料全体からまとめてとらえる力をみる問題の正答率が上がっていることから、指導の改善が図られているといえる。この問題の正答率が低いのは、平成15年の各農作業にかかる時間を読み取り、それらを合計し昭和45年と比較するというように、資料から必要な情報を収集し目的に応じて活用する力が弱いからであると考えられる。「観察・資料活用の技能・表現」の力は事実や社会的事象の特色や意味をとらえるための重要な力である。多様な資料の読み取りや統計資料等を活用して、目的に応じて調べ、考えたことをまとめ、表現させる指導の一層の充実が求められる。

2の3は、「四方位を正しく理解し、ある地点からの方位を表すことができるか」をみる問題であるが、正答率は60%を下回っている。特に誤答に「イ(西)」が多いことから、地図は北を上にして表すことや、東西の位置関係など四方位の理解ができていないと考えられる。第3・4学年では、四方位や縮尺を活用し、「私たちの町は県庁のあるC市のほぼ北の方角の30キロメートルのところにある」(小学校学習指導要領解説 P46)と表現できるように学習している。その学習を生かし、実際の指導に当たっては、地図を十分に用いて、主な地図記号や四方位を正しく理解し活用できるようにしたり、身近な地域の観察や調査、総合的な学習の時間等において地図を活用したりするなど、白地図や地図帳の日常的な活用がより一層必要である。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> 2 の2

2 見学した工場は海の近くに建てられていました。その理由として最もあてはまるものを次のア～エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 原材料の輸入や完成した自動車の積み出しに便利だから。
- イ リサイクルできない部品を海に捨てることができるから。
- ウ 工場で働く人が、船で通勤するから。
- エ 海の近くは自然が豊かで、働きやすいから。

<結果> 2 の2 正答率 80.5% (正答…ア)

## <分析>

②の2は「工業生産を支える貿易や運輸の大切さについて考える力」をみる問題であるが、正答率は80%を上回っている。この問題では、自動車工場が海沿いに立地する要因について、自動車工場の近くに立地する部品をつくる工場では海外から多くの原材料を輸入して加工していることや、大きな製品である自動車を輸送するには船が便利であるという輸送手段についての理解を関連させ、確かな根拠を基に考察できていると考えられる。これは、地図やその他の資料を活用して具体的に調べる活動を重視したり、調べたことを根拠として考えたりする指導の充実が図られている成果であると考えられる。同様に、④の3など、「思考・判断」を問う問題の正答率は85%程度であることから、おおむね満足できる状況にあると考えられる。

しかし、「思考・判断」をみる問題でも①の4、④の4の正答率は低いことから、学んだことを生かして発展的に考えたり他の事例に転化したりする学び方や、自分の考えをまとめて適切に表現する力が十分身に付いていないといえる。実際の指導に当たっては、地域教材や人物を中心に具体的に学んだことを、日本の産業全体や国民生活の維持と向上という視点で考え直す場を単元の終末に位置付けたり、根拠を基にして集団で学び合う場を位置付けたりするなど、指導方法の改善が必要である。その際、調べたことや考えたことについて、相手を意識し、目的に応じた方法で表現する活動の一層の充実が求められる。

## 3 分析を踏まえた指導の改善

### (1) 指導計画の工夫改善

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るという観点から、指導内容が地域や児童の実態を踏まえ吟味、精選されているか見直しを図る。

- ・事例や対象を選択する必要があるものについて、児童や地域の実態、指導時数等を考慮して適切に選択されているか見直しを図る。例えば、人物を扱った学習では、人物を通して学んだことを日本の産業や国民生活という視点で考え直し、各産業の概要や問題点の理解を図ったり、他の事例に転化できる学び方を身に付けさせたりするよう努める。
- ・観察や調査・見学など体験的な学習について、他教科や総合的な学習の時間等との関連を考慮し、グラフや統計資料の読み取りなど学んだことの活用や、地図や分布図を用いて学習できるようにしたり、調査・見学、体験等において地図を活用するよう学習を心がけ、その有効性・有用性に気付かせたりするよう努める。

### (2) 指導方法の工夫改善

問題解決的な学習の充実を図ることで、課題に対して様々な資料等を活用して、調べ考えたことをまとめ、表現する学習を行うように努める。

- ・調べたことを発表するだけでなく、調べたことや自分の考えをまとめ、目的に応じた方法で表現する力、社会的事象の意味について考える力を育てるよう努める。例えば、資料活用の技能を段階を踏まえて具体化し、児童にその技能が確実に身に付くようにする。特に地図の活用の技能や統計資料の読み取り等の指導を意図的・計画的に行う。
- ・児童に表現する力を付けるために、例えば、学習したことを根拠に討論会をしたり、様々な資料や文章から読み取ったことや自分の考えをまとめ文章で表現したり、自ら資料を作成したりする機会を充実するよう努める。
- ・個の学習状況の把握と分析に基づき、授業において個の様相を予想し、個に応じた指導・援助を具体的に指導に当たるとともに、評価規準や個人カルテ等を活用し、確かな学力が身に付くよう適切に指導し、評価問題などを実施することで、確実に見届けるようにする。

### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・学習環境の工夫について、教室内に四方位を示す掲示をするなど、常に、学んだ内容が具体的に確かめられ、児童が自然に身に付けられるよう改善を図る必要がある。
- ・学習集団の育成について、一人一人の調べ方や学び方のよさを広げたり、社会的なものの見方や考え方を深めたりする上で、学び合いの一層の充実を図る。そのためには、学び合いの姿を具体化し、調べ方や学び方のよさやものの見方や考え方のよさを教師が適切に価値付けるようにする。